



遠藤れい子ひまわりレポート

○遠藤れい子事務所 〒940-0052 長岡市神田町3丁目1-3 ☎ 0258-32-1741 fax 0258-32-6443
○県議会執務室 〒950-0965 新潟市中央区新光町4-1 県議会内 ☎025-280-5475

一遠藤れい子議員の県議会報告(その4)一

新年度予算について、花角知事を買す

県民の「目に見える」地球温暖化対策の強化を！

温暖化対策について

【遠藤県議の質問】

新年度予算には「脱炭素社会への転換」として、様々な新規施策が打ち出されたが、大本となる「新潟県地球温暖化対策地域推進計画(2017~2030)」の見直しが進められている。2030年度までに「温室効果ガス排出量を平成25(2013)年度比で26%削減」とする現行目標はどうか？達成する知事の決意は如何。

【知事答弁】

新たな2030年の本県目標は2013年度比46%削減をめざしたい。

【遠藤県議の質問】

電力分野はCO2排出量の約4割を占めていることから、電力制度の大改革が



重要だ。再エネ普及の障害となつている送電ルールを、再エネを優先接続する仕組みとするべきではないか。

【知事答弁】

本県における再生可能エネルギーの導入を促進するために系統接続の制約を解消することが不可欠である。他県とも連携し引き続き国に要望していく。

省エネの加速のために

【遠藤県議の質問】

省エネを加速させるうえで、ZEHの普及は不可欠だが、新築住宅への導入だけでなく、住宅リフォームによるZEH普及にも目を向けた取組を進めるべき。

【知事答弁】

議員ご指摘のとおり、暖房・断熱対策の普及に取り組んできた。雪国という気候を考慮した断熱性の高い住宅として「雪国型ZEH」を普及していくために新年度から支援を行うこととしている。



「気候時計」の設置を

【遠藤県議の質問】

脱炭素社会の実現は、一人ひとりの県民がライフスタイル、生活様式を見直し、省エネ・再エネの努力を行うことが欠かせない。温暖化危機をカウントダウンする「気候時計」を設置するなど、県として目に見える啓発活動を強化すべき

【知事答弁】

県内大学でも学生が温暖化対策について学び、環境イベントに出展する等の活動もある。普及啓発の強化に取り組んでいく。

原発を再稼働させない子どもたちの未来を守る新潟県知事を片桐奈保美さんが知事選に出馬を表明！

3月17日、市民有志の「新しいリーダーを誕生させる

会」が記者会見し、片桐奈保美さんが新潟県知事選挙に立候補を表明しました。

「ロシアによるウクライナの原発施設への攻撃で危機感が強まる中、子どもたちの未来を守るためには原発を再稼働させない知事が必要です。女性が活躍する新潟県をめざしたい。」と力強く笑顔で決意表明しました。



女性たちと一緒に記者会見する片桐奈保美さん

NO WAR



ロシアはウクライナから撤退せよ！
無差別攻撃はやめろ、市民を殺すな！
原子力発電所への攻撃は許せない！
核兵器を使うな！

(←ロシアTVの職員の訴えをつたえる新聞報道)